

2011年3月期決算説明会 Q&A 議事録

日時:2011年5月17日(火) 10:00~11:30

場所:大和コンファレンスホール 18F A1A2

Q&A 内容

Q1: 2012年3月期の業績見通しについて、ほとんどのセグメントで売上が増えるが、営業利益率が下がる理由は何か?その背景を教えてください。

A1: 精密機器セグメントについては、設備投資による減価償却費の増が主な理由。輸送用機器セグメントについては、震災影響のリスク、販管費のアップ及び鉄道事業中国合弁会社の設立による固定費、人件費などの増が主な要因。航空油圧機器セグメントについては、油圧機器の中国市場での競争による価格低下が背景。

Q2: 説明会資料 25 ページ 2011年3月期から 2012年3月期営業利益分析要因の中では、減価償却費の増加による営業利益マイナス 32 億円という項目があるが、その中には Gilgen 社との統合(産業用機器セグメント・自動ドア事業)によるのれん代の償却は含まれているか?マイナス 32 億円のセグメント内訳も教えてください。また、2012年3月期設備投資額、研究開発費及び減価償却費の見通しは?

A2: のれん代の償却費用は減価償却費に含まれている。

減価償却費 32 億円増加のセグメント内訳については、精密機器セグメント約 11 億円、輸送用機器セグメントは 3 億円弱、航空油圧機器セグメントは約 7 億円、Gilgen 社との統合によるのれん代の償却が含まれている産業用機器セグメントは約 10 億円、残りはその他。

2012年3月期の設備投資額見通しは 175 億円、研究開発費見通しは 45 億円、減価償却費の見通しは 86 億円。

Q3: 2011年3月期実績精密機器セグメントの営業利益率は 19.9%、2012年3月期と中期計画最終年度 2014年3月期の見通しはそれぞれ 19.8%と 20.6%、以前四半期で 22%の営業利益率もあったが、今回の計画で売上の増ほどには営業利益率が上がらない理由は何か?

A3: この中期計画の狙いは次の成長に向けていろいろな面で大型設備投資を行うこと。その負担の増が営業利益率が上がらない要因。少し営業利益率を抑えることになっても、この先の成長のため投資していきたい。

Q4: 2012年3月期精密機器セグメントの売上高見通しは 444 億円で、これは各ロボットメーカーの見通しよりやや強めのイメージだが、背景は何か?

A4：444 億円は市場のグロスそのままではない。2011 年 3 月期に出荷しきれなかったものが 2012 年 3 月期に入っている。受注残の解消は少なくとも第 3 四半期までかかる。

Q5：中期計画の中では、事業拡大投資 300 億円があるが、その具体的なターゲットを教えてください。

A5：300 億円の中では、4 月に Gilgen 社との統合で 180 億円を使った。残りは 120 億円。やはり産業用機器セグメントを次に成長させなければならない。販売、サービスネットワークを含め日、米、欧、中、世界 4 極体制の強化にいくらかを使うと思う。後は成長できていない事業に対する M&A とアライアンスの投資。

Q6：原発・震災影響について教えてください。

A6：2011 年 3 月期の影響は売上高十数億円、営業利益はその 1 割。顧客が一時工場を停止した商用車関連に影響があった。また、精密機器と油圧機器はスクラップがないことで铸件が入手困難になり、ぎりぎりの状態になったが、こちらは鉄鋼メーカーの協力を仰ぎ、铸件原材料の手当てを行った。2012 年 3 月期の見通しでは、売上高マイナス 43 億円、営業利益マイナス 13 億円程度のリスクを織り込んでいるが、まだ先は読みづらい。自動車メーカーの生産回復後には部品供給がそちらに優先される可能性もあり、不透明材料となっている。

Q7：精密機器セグメントで 2011 年 3 月期第 4 四半期の営業利益率は増産並びに納期対応費用の前倒し発生により大きく落ちたが、2012 年 3 月期に入って、改善していくか？

A7：まだ続く。少なくとも第 1 四半期まで。

Q8：中期計画の研究開発費はどの分野に使われる予定か？

A8：子会社の商用車機器事業及び包装機事業を含め、当社には 8 つの主要事業があるが、建機用油圧機器、太陽発電追尾装置を含む精密減速機及び鉄道車両用機器には成長エンジンとして積極的に投資していく。他には、自動ドア事業では Gilgen 社との融合を重視する。

Q9：太陽追尾駆動装置(精密機器セグメント・精密減速機事業)の競争状況及び市場動向を教えてください。

A9：当社は独自の技術である RV 減速機を提案しているが、商用発電は現在実証試験中。1 プロジェクトの規模は 20~30 億円で、いくつ受注できるかがポイント。中期計画の最終年度には少し売上を織り込んでいる。

Q10：2011 年 3 月期の輸送用機器セグメントの営業利益率は鉄道事業の品質補償費用 29

億円を除けば 18%になるが、改善した理由を教えてください。また、中期計画最終年度 2014 年 3 月期については、品質保障費用が減るわりには、営業利益率が上がらない要因も教えてください。

A10：2011 年 3 月期の営業利益率は製品構成差によるもの。中期計画の最終年度鉄道品質補償費用のリスクを約 6 億円織り込んでいる。

Q11：鉄道事業中国向けの売上実績と見通しを教えてください。

A11：2011 年 3 月期は約 85 億円。2012 年 3 月期の見通しは 130 億円。中期計画最終年 2014 年 3 月期は 180 億円の計画。

以上